

多様な暮らしを「知る」ことで近づく心の距離 「身体に障害がある人のお掃除」の読者反響を公開

My Kao 「くらしラボ」にて、5月28日公開

花王株式会社では、暮らしに関わる様々な調査を行っています。昨年（2023年）、多様な人がともにいきいきと暮らす社会を一緒に考える機会に思えば、普段知る機会が少ない「身体に障害がある人のお掃除」についてのアンケート結果を公開しました。掃除という日常的な行動を通して、障害がある人の暮らしや思いを知った、読者（2,471名）から寄せられた反響を、My Kao「くらしラボ」（※1）にて2024年5月28日に公開します。

※このリリースでは、視覚障害のある方が利用するスクリーンリーダー（コンピュータの画面読み上げソフトウェア）が正確に読めるように、「障害者」を「障がい（さわりがいと読み上げられる）」ではなく「障害」と表記しています。

今回寄せられた反響のうち、家族や親戚、職場、友人、近所の住人など身体に障害のある人が身近にいるケースは約4割にのびました。様々な気づきの声が多く、具体的な人をイメージした声や、今後の障害者への接し方や声のかけ方の参考にしたいという意欲的な意見もあり、社会の多様性への受け止め方も変わってきている印象を受けました。身体に障害がある方からは、自分たちの日常が話題になったことを前向きに受け止める声もありました。

● 障害がある人の日常を初めて知った

まず多かったのは、身体に障害がある人が掃除を自分自身で行っていることへの驚きの声でした。街中で身体に障害がある人を見かけることはあっても、普段の生活を見る機会があまりないためか、自分で掃除をしているという事実、そのための工夫や掃除への思いなどに初めて触れた人が多かったようです。



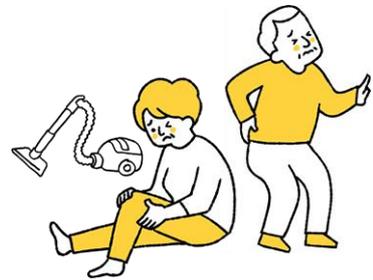
身近に身体に障害がある人がいなかったため、身体に障害がある人がどんなふうにお掃除をしているかを初めて知りました。もっと理解を深めたい。（20代女性）

看護師で障害のある方と関わる機会は多いですが、掃除についてはヘルパーさんや家族がやっていると思いつき、こんな不自由があるとは思っていませんでした。（30代男性）

自分で掃除している人が多く、びっくり。ヘルパー任せだと思っていた。リハビリにちょうど良いとポジティブな方もいて素晴らしい心掛けに感激。（30代女性）

●障害がある人の暮らしと、身近な日常の中にある共通点

身体に障害がある人が掃除をする上での悩みや工夫を、自分ごととして捉えた人も少なくありませんでした。祖父母や両親、あるいは自分が年齢を重ねた時をイメージしたり、腰痛や一時的な怪我、妊娠中の経験から共感できることもあったようです。身体が思うように動かせなくなることは、自分や家族にも起こり得ること。自分とは関係がないと切り離すことなく、その暮らしに共感し理解する様子が見られました。



実家の母も高齢で、「膝や腰が痛いので掃除機や、かがんで拭き掃除などができない」と言っていたので、参考になりました。(50代男性)

私も今年事故で腰と足を折ってしまい、障害がある方の気持ちがよく理解できます。日常生活ですらままならないのに掃除や家事は本当に難しいと感じました。(30代女性)

私も妊婦になった時に、かがむことができず、狭いトイレの床掃除ではとても困った経験があり不便さは理解できた。(40代女性)

●接し方や声のかけ方のヒントになった

読者の中には、身近にいる家族や同僚などの障害がある人を思い浮かべた人たちもいました。普段、私たちは無意識のうちに障害の「ある」「なし」で線引きをし、立場を固定して考えがちなのかもしれませんが、人によって状況は千差万別。「思いを聞きつつ、頼ってもらう部分と任せる部分を一緒に考えたい」など、接し方を考えるヒントにもなっていました。



障害がある人の目線で物事を見たり、考えたりすることで、寛容さや配慮の必要性に気が付きました。(30代男性)

私が掃除をすることもできますが、祖父に掃除を手伝ってもらいます。「人の役になっている」と感じてほしいので、できることはお願いします。(20代女性)

障害をお持ちの方と接する時、どのように接すればいいかを学習できたように思います。障害をお持ちの方に気軽に頼られるような人に成長したいです。(40代男性)

●障害がある人に目が向いたことがうれしい

障害のある方からは、自分たちの日常が話題になったことを前向きに受け止める声がありました。少数派である障害者を対象とした記事が少ないためか、自分たちを取り上げ、しかも掃除という日常に目を向けてくれたことが嬉しかったとのことでした。また、「困っているのは自分だけじゃない」「障害が違っても掃除で困



ることも違う」など、気付きもいろいろあったようです。

私も耳が聞こえにくく、障害がある人の日常生活の、それも掃除にスポットを当てた記事なんて今まで見たことがない。よくそこに目を向けてくれたと感心しました。(40代女性)

同じ経験をしている人が多くて、うなずいてしまいました。ヘルパーに頼みたいけど、何でもお金がかかります。できるだけ自分でやっています。(60代女性)

私も事故の後遺症で軽いですが上肢に障害が残り、掃除などがやり辛い部分があるのでとても共感できました。少数派の事も考えてくれているのが嬉しかったです。(50代女性)

今回読者の反響から、「身体に障害がある人のお掃除」を「知る」ことで、身近な日常の中にある共通点に気付き、心の距離が近くなったように感じました。My Kao くらしラボでは、これからも様々な暮らしや生活者の思いを発信し、誰もがいきいきと暮らす社会を皆さまと一緒に考えていきたいと思えます。

詳しくは以下 URL をご確認ください。

- ▶ My Kao くらしラボ 「多様な暮らしを『知る』ことで近づく心の距離～『身体に障害がある人の掃除』の読者反響から～」

<https://my.kao-kirei.com/kurashi-labo/special/005/>

(2024年5月掲載)

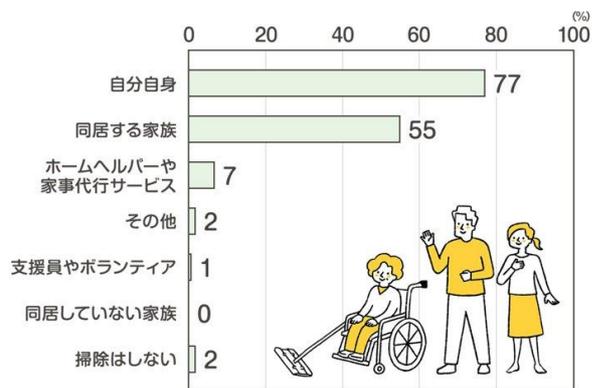
※1「くらしラボ」の説明

花王が運営する双方向のデジタルプラットフォーム「My Kao」内にある生活情報サイト。生活者一人ひとりの暮らしを見つめる長年の生活者研究から得られた知見を元に、家事・美容・健康などいまの暮らしに役立つハウツー情報や、これからのこころ豊かな暮らし、社会を考えるための情報を生活者視点で発信しています。

My Kao「くらしラボ」 <https://my.kao-kirei.com/kurashi-labo/>

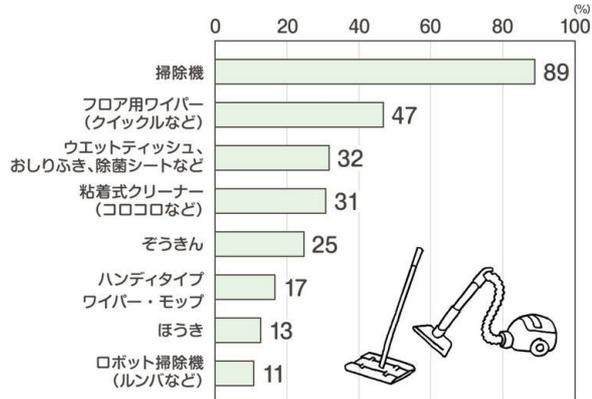
参考) My Kao くらしラボ「身体に障害がある人 327 人の声 リビングや自分の部屋の掃除、どうしてる？」
<https://my.kao-kirei.com/kurashi-labo/special/002/> (2023 年 12 月公開)

Q. **リビングや自室を掃除する人は？**



ミライロモニター
 上肢、下肢、体幹、内部、聴覚、視覚のいずれかに主な障害のある人 327人
 (2023年10月 花王 コンシューマーインテリジェンス室調べ) (複数回答)

Q. **リビングや自室の掃除で使っているもの(洗剤以外)**



ミライロモニター
 上肢、下肢、体幹、内部、聴覚、視覚のいずれかに主な障害のある人のうち、ご自身でリビングや自室を掃除する人 251人
 (2023年10月 花王 コンシューマーインテリジェンス室調べ) (複数回答/上位8項目)

身体に障害がある 327 人を調査したところ、障害の種類や程度は様々ですが、リビングを自分自身で掃除をする人が約 8 割。使う道具にも障害の有無による大きな違いはあまり見られませんでした。困っていることでは、「立ったり座ったり、腕を上げたりができないので、掃除が大変（上肢障害・下肢障害）」「汚れが見えにくいので、掃除の仕上がりが確認できない（視覚障害）」「音が聞こえにくいことで、掃除機にごみが詰まっても気付かない（聴覚障害）」などの声がありました。一方で、なるべく身体への負担を減らすような道具を選ぶ、汚れが見えないから毎日掃除をする、聞こえなくても周囲には騒音の配慮をするなど、「できる範囲の掃除は自分でしたい」という思いを大切にしていることもわかりました。

身体の障害って？

上肢障害（手や腕が使いにくい）、下肢障害（足を動かすにくい）、体幹機能障害（体を支えることが難しい）、視覚障害、聴覚障害、内部障害（身体の臓器などに障害がある）など、身体機能に何らかの障害があることです。

調査協力：  MIRAIRO 株式会社ミライロ (<https://www.mirairo.co.jp/>)

障害がある当事者の視点を活かし「環境・意識・情報」のバリアを解決するソリューションを提供しています。